

第6回 中部 MISt 研究会ハンズオンセミナーに参加して

市立砺波総合病院手術室 看護師 越塚 奈美

2016年9月4日(日)金沢市にて第6回中部 MISt 研究会が開催され、看護師を対象としたハンズオンセミナーに参加させていただきました。大きく皮膚切開された脊椎固定の手術では、術野の状態を看護師も見ることができていたため、解剖的なことも含め、今術野で何が行われているのかを理解しやすかったように思います。しかし最近行われる MISt 手術では、透視モニターの画面上で手術の進行を把握できるとはいえ、慎重にガイドワイヤーを進めているということを理解できても、その周囲やガイドワイヤーの先の何に気をつけて刺入しているのかということが理解しにくくなったと感じていました。そのため、メーカーのご担当者から手術手順の説明を受けて、ただ覚えてきた器械を順番に手渡すことだけに気を取られていることもあったように思います。器械も多く、どちらかといえば苦手だと感じていた MISt 手術ですが、少しでも理解できれば好きになれるかも……。という期待を込めて、昨年富山で行われたセミナーに引き続き2度目の参加となりました。

セミナーでは、福井総合病院 水野勝則先生より「脊椎手術に必要な解剖について」、高岡市民病院 中野正人先生より「LLIF の手術手技について」、富山県立中央病院 笹川武史先生より「PPS の手技について」、名古屋市立大学 手術室看護師 岡田悠揮さんによる「MISt 手術を支える器械出しの工夫・コツ」についての講義がありました。脊椎手術に必要な解剖学、XLIF と OLIF の違い、PPS とは何か、チームの一員として看護師が果たす役割についてそれぞれの先生から分かりやすく講義していただきました。脊椎の解剖上、慎重にガイドワイヤーを進めなくてはならない理由や、手術体位とイメージ操作のポイント、透視下でガイドワイヤーの刺入点を決定する医師の視点等、個人で学習しても得られないような知識が得られました。

ハンズオンセミナーでは、参加者 28 名が 5 つのグループに分かれ、模擬骨を使用して実際の手術手技を体験しました。参加したいメーカーの事前調査があり、私は何回か使用したことのあるメーカーを選択しました。いつもは医師に手渡しているだけの器械ですが、ハンズオンでは実際に使用することができます。私が参加したグループでは笹川先生、水野先生が講義の内容を復習しながら、手術手技、ポイントを教えてください、指導を受けながらスクリーンの挿入、ケージの設置を体験しました。筋肉や内臓を避けながら刺入角度を決定して安全にスクリーンを挿入することの難しさを経験することができました。実際に経験することで、医師が操作しやすいように器械を渡すにはどうしたら良いかなど、器械出しと関連付けて考えることもできました。また、メーカーの方からも、器械の使用法や使い方、ケージの取り付け方など詳しく教えていただくことができました。

苦手だと感じていた MISt 手術を少しでも理解したいと思い参加した今回のセミナーですが、先生方の講義やハンズオンでのご指導により、手術室看護師に必要な MISt 手術についての知識や器械出しの技術についての理解を深めることができたと感じ、脊椎手術に対する興味や関心を高めることができました。学んだことを実際の手術の場面で生かし、チームの一員としての役割を果たせるようにしたいと思います。

最後になりましたが、貴重な学習の機会を与えてくださった、事務局の方々、先生方、メーカーの方々に感謝致します。

平成 28 年 9 月 20 日

